

平成30年度 学校評価結果

栃木県立那須拓陽高等学校

校 訓		耕学一如 冷暖自知		
教 育 目 標	1 使命を自覚し、責任を重んじる（自律） 2 個性を伸長し、創造的な前進をする（創造） 3 生命を尊重し、人類社会に奉仕する（奉仕）			
目 指 す 生 徒 像	1 拓陽高生としての自覚を持ち、自らに誇りを持って生きる生徒 2 将来に希望を持ち、自らの力で進路を実現できる生徒 3 自他を敬愛し、心豊かで思いやりのある生徒 4 心身ともに健康で、社会に貢献できる生徒			
教 育 方 針	1 文武両道を標榜し、学習と部活動の両立を奨励して生徒の活力を引き出す。 2 わかる授業を推進し、自主的・意欲的に学習する態度の育成に努める。 3 基礎基本の定着を図るとともに、学びの機会を充実し、実践力に富み自ら考える確かな学力を身に付けさせる。 4 学科の特性と生徒の個性、能力、適性に応じた指導による進路実現に努める。 5 共通理解による生徒指導体制の下、基本的な生活習慣の確立を図り、自己指導能力の育成に努める。 6 個々の生徒を理解し、健全な心身の育成を図る。 7 人権意識の涵養を図り、自他を大切にし、生命を尊重する態度の育成に努める。			
本 年 度 の 重 点 目 標	○5学科連携の深化 ○進路指導の充実と新テストへの対応 ○「伸びる授業」の実践 ○心の教育の推進	反 省 評 価	○収穫祭の全校行事化等を通して、5学科連携を深化させている。今後も更なる深化を図る。 ○各学年の進路ガイダンスや個別指導も計画通り十分に実施できた。新テストに向けても、研究し備えており、継続して取り組む。 ○研究授業等を通して授業の改善を図っている。資格試験等についても積極的な取り組みを支援している。今後も「伸びる授業」の実践に継続して取り組む。 ○校内の教育相談体制の確立を図り、また、アンケートの実施等により、様々な生徒に関わる問題に対し迅速に対応出来ている。今後も、的確な対応が出来るよう取り組む。	
評 価 基 準	A 十分満足できる B おおむね満足できる C やや努力を要する D 一層努力を要する			
評 価 項 目	努 力 目 標	具 体 的 取 り 組 み	評 価 分 析 ・ 考 察 (評 価 の 根 拠 と な る 実 績 等) 改 善 策 ・ 取 り 組 み (次 年 度 の 課 題)	
学 校 運 営	教育目標の理念に基づいた学校運営の推進	現行の教育課程について更なる改善を図る。また、新学習指導要領に準拠した教育課程を研究し、編成に備える。	B 新教育課程の編成を開始した。また、現行の教育課程についての改善を検討している。現状についてもアンケートの結果は良好であり、編成に備える。	現行の教育課程について更なる改善を図る。また新学習指導要領に準拠した教育課程の研究、編成を行う。
		各 科 ・ 各 部 と 連 携 を 取 り、整 理 整 頓 と 施 設 ・ 設 備 の 更 新 を 含 め 環 境 の 整 備 に 努 め る。	B 第2校舎の改修工事を行い改善を図っているが、その騒音の影響が一時的にある。アンケートについても、肯定的評価が90%以下であり、更に改善すべきと考えられる。	引き続き、各科・各部と連携をしっかりと取り、整理整頓と施設・設備の更新を含め環境の整備に努める。予算もあるが、優先順位を考え施設・設備の更新を出来る限り実施していく。
学 習 指 導	自ら学ぶ意欲の喚起と学力の育成	チャイムと同時に授業を開始し、授業に集中できる学習体勢を確立する。	B アンケート結果では、生徒89.9%・保護者93.7%・教職員96.4%が肯定的評価であるが、評価平均値比較では昨年度より低下している。授業時、校舎改修工事の騒音により授業への集中が途切れたこと等も影響していると考えられる。	次年度以降も引き続きチャイムと同時に授業を開始するよう教職員が心がけ、生徒が意欲的に参加できるよう授業の工夫に努めていきたい。
		各種試験等に積極的にチャレンジさせる。	B 生徒の評価は保護者や教職員より高い結果となり、積極的に各種試験に挑戦していることがうかがえる。	次年度以降更に多くの生徒が各種試験に挑戦し、合格率も高められるよう努めていきたい。
指 導	図書館	豊かな心と教養を育む図書館活動の促進	B 校内での実施について十分に周知されている。多くの読書好きな生徒が短い時間ながらも有効的に活用し、有意義な時間となっていることがアンケートからうかがえる。	あまり本を読むのが好きではない生徒が読書に興味をもてるような工夫をする必要がある。もう少し積極的な働きかけをしていきたい。
		読書意欲を喚起するための案内や広報活動を積極的にを行う。	B おおむね定期的に図書館だよりの発行ができていた。アンケートの結果でも、生徒・保護者・教職員ともに図書館だよりが認知されていることがわかる。	図書館だよりを軸として、他の様々な広報活動を計画し、読書や図書館により興味を持ってもらえるようにしていきたい。外部との連携なども考えたい。
生 徒 指 導	生徒指導	自律心、規範意識、自他を尊重する精神の育成と安全で節度ある生活態度の育成	A 計画的かつ定期的な指導により、身だしなみに対する意識の向上につながっている。	職員指導に関する共通理解を深め、より組織的に取り組んでいきたい。
		教職員間の共通理解による一貫性のある毅然とした粘り強い指導体制の確立	A 校内における教育相談体制が周知され、様々な生徒の悩みに対して、より迅速に対応出来るようになった。	教職員間だけでなくスクールカウンセラーとの連携を通して、個に応じた教育相談を充実させていきたい。
		担任及び各係等との連携を密にし、生徒に関わる諸問題の早期発見・早期解決に向けて計画的に取り組む。	B 学校生活に関するアンケート実施の意義が生徒に浸透し、生徒に関わる諸問題の早期発見・早期解決への取り組みがよりスムーズとなった。	早期解決のため、担任や学年と生徒指導部が連携することで、迅速に対応し、解決へ導けるようにしていきたい。
指 導	健康指導	たくましく豊かに生きるための健康づくりや体力づくりの推進	A アンケート結果は肯定的評価が、生徒94.4%、保護者92.0%、教職員100%と高評価であった。活気ある部活動は本校の大きな特徴でもあり、魅力ある学校運営の一端を担っていると言える。	安心・安全に活動できるよう各係との連携を引き続き行っていく。活動内容についてはHPに随時アップし広報活動にも力を入れて行く。
		より多くの生徒、職員が救急救命法を学び、学校全体で危機管理意識の醸成が行えるよう計画する。	A 救急救命法については積極的に計画し実行することができた。アンケート結果では肯定的評価が、生徒93.8%、保護者91.2%、教職員100%と高評価を得ることができた。個々の意見の中には校舎内外トイレへの要望が多数寄せられているため、今後対処していきたいと考えている。	危機対応スキルの維持向上と過ごしやすい環境づくりを目指し各係が連携し計画して行く。また、普通救命Ⅰ～Ⅲまでの資格が本校でも受講可能になった為、職員にも積極的に受講を促し学校全体で危機管理を醸成させて行く。
進 路 指 導	進路実現のための課題克服力の育成と積極的な支援活動の推進	各学年が主体とする進路意識育成ガイダンスの実施に努める。また、新テストに向けての準備を進める。	B アンケート結果は全体的に肯定的評価であった。学年に応じたガイダンス等も実施でき、進路意識の育成につながったと思う。新テストに向けては、現在わかっている範囲での準備を進めている。	次年度も進路ガイダンス等を実施する予定であるが、ガイダンスの内容を再検討し、新テスト等に向けての指導を進めていく必要がある。
		進路相談等の個別指導やアドバイスの強化を図る。	B アンケート結果は全体的に肯定的評価であった。特に3年生については、A評価の値が高かった。個別の指導が十分行えた結果であると思われる。	1、2年生の進路相談やアドバイスは担任だけで行うのではなく、学年や進路指導部と協力できるように働きかけ、生徒の進路意識の高揚につなげたい。
特 別 活 動	自律・創造・奉仕の精神を育む生徒活動の推進	生徒全体のために奉仕できる生徒の育成を図る。	B 昨年の生徒・保護者結果と比較すると平均値が上がっており、おおむね肯定的である。反面、教職員による評価は下降しており、生徒・保護者との間に意識の違いが見られる。	自分を大切にすることでなく、他人のことも思いやりを持って行動できる生徒を育成するために、福祉・奉仕活動をはじめとして、あらゆる特別活動を通して働きかけていく。
		生徒が誇りを持って活動していると自覚できる部活動を推進する。	B 全体的に平均値は高いが、生徒平均値が下降、教職員平均値が1ポイント以上大幅に下降している。	生徒の出ず結果だけでなく、日常の頑張りにもさらに目を向け、自己肯定感を高められるようにポジティブな声を教職員の間から、さらには生徒同士でも積極的に行っていく。そのためには、教職員は生徒の活動をさらにつぶさに観察する必要がある。

評価項目	努力目標	具体的取り組み	評価	分析・考察 (評価の根拠となる実績等)	改善策・取り組み (次年度の課題)	
渉外	学校・家庭・地域の相互連携の推進	P.T.A関係行事の内容・案内を充実させ会員の積極的参加を促進する。	B	アンケートの結果は、生徒・保護者・教職員いずれも90%以上が肯定的回答で、概ね良好である。	今後も関係書類を確実に保護者に渡す指導を工夫して徹底したい。また、行事内容の更なる活性化を図りたい。	
		支部組織の見直し、強化を図り活動を充実させる。	B	アンケートの結果は、保護者・教職員共に90%以上が肯定的意見であるが、50%以上がB評価であった。	支部役員と教職員の連携を密にし、各支部の活性化を図りたい。	
情報	情報化社会における環境の整備と情報教育の推進	開かれた学校を目指したホームページの運営	B	アンケート結果は概ね良好であるが、生徒と比べ保護者・教職員からの評価が若干低かった。	現状をふまえ、円滑なホームページ運営を図りたい。	
		生徒に対する情報モラル教育の充実	B	アンケート結果は概ね良好であるが、生徒・保護者に比べ教職員からの評価が低かった。	現状をふまえ、情報モラルの更なる浸透を図りたい。	
学年	1 学 年	学校行事や部活動への積極的な参加と学校生活への適応	B	生徒・保護者とも90%以上が肯定的評価であった。	身だしなみはおおむね良好だが、気持ち良く挨拶ができるのは一部の生徒に限られている。指導を徹底したい。	
		授業への積極的な取り組みを定着させる。	B	アンケート結果はおおむね良好であったが、保護者の評価が低い結果となった。	家庭学習時間を確保できている生徒が少ない。教材や課題を工夫し、自主的な学習ができるようにしたい。	
	2 学 年	中核学年としての積極的な活動と充実した高校生活の推進	B	生徒・保護者・教職員とも肯定的評価が90%を超えており、概ね良好である。	生徒一人一人の進路実現に向けて、進路指導部との連携をはかり、業者からの情報も得ながら、更に指導を充実させていきたい。	
		学校行事やHR活動を通して、人を思いやる心や奉仕の心を育成する。	B	アンケート結果はおおむね良好であったが、保護者のC・D評価で8.1%(17名)と、他の質問に比べやや多い結果となった。	引き続き日々の授業、人権教育などの学校行事、HR活動等を有効に活用し、他者を思いやる心の育成に努めたい。	
	3 学 年	自己実現への積極的な取り組みと自立に必要な心構えの育成	B	生徒・保護者・教職員とも肯定的評価が90%を超えており、概ね良好である。	多様化する進路希望への対応や進路決定後の意識付けも更に努めていきたい。	
		社会人として必要な正しい言葉遣いや挨拶の励行、規範意識の高揚に努める。	B	生徒・保護者・教職員とも肯定的評価が90%を超えており、概ね良好であるが、保護者において若干名がC評価であるため、改善が必要である。	集会時の講話や日常の適切な場面で、取り組みを意識した指導を図りたい。	
	学 科	農業系学科	農業生物の栽培・飼育・加工に関する体験学習の重視と実践力、創造力、社会性の育成	B	生徒の回答は、保護者・教職員より高い評価を得た。生徒たちが、農場での実践的体験学習から、実践力、創造力、社会性を育成していると考えられる。	次年度は、さらなる実験・実習・調査を充実させ、実践力・創造力・社会性を育成し、社会から求められる人材の育成に努めたい。
			実験・実習時の安全指導の徹底を図る。	B	生徒の回答は、保護者・教職員より高い評価を得た。実験・実習時の安全指導の徹底が行われていると考えられる。	次年度は、さらなる実験・実習の安全指導の徹底を図りたい。実験・実習時の危険作業の事例を指導し、安全指導の徹底を図る。
		食物文化科	食生活に関する専門的な知識や技術を総合的に学習し、食物文化を創造し伝承する能力の育成	A	生徒の回答は97%がA評価であり、高学年ほどその割合は高くなっている。検定やコンクールに対し真剣に向き合い努力を重ねたことで、各自の知識・技術についての充実感を得られたと考えられる。	次年度以降も生徒ひとりひとりが知識・技術の向上を実感し定着できるよう、更に指導の充実を努めたい。
家庭での食生活を経営する能力と態度を養成するとともに食物関連産業で活躍出来る人材を育成			A	生徒・保護者・教職員ともに肯定的評価が100%と高評価であったが、評価平均値は昨年より低下している。生徒が学校で学んだことが、家庭での実践に繋がっていない部分があると推察される。	学校での学びにより生徒が自信を深め、家庭での実践に繋がるよう、様々な機会を利用し働きかけをしていきたい。	
普通科		確かな学力を身につけ、自己の個性や適性を発見し、自己実現に向けた課題に挑戦して困難を克服してゆく能力と態度の育成	B	生徒・保護者・教職員ともに95%以上が肯定的評価であったが、昨年と比較すると若干低下した。課外に対する意識が低下している生徒が増えつつある。	次年度以降も課外授業や学習合宿等を充実させ、生徒の勉学に対する意識を高めながら、教職員と生徒が丸となって学力向上を目指して取り組んでいきたい。	
		共生の精神の修得と、他者や社会に奉仕する心の育成	B	勉学に取り組み、また学校行事や部活動などにも積極的に参加して、充実した生活を送った生徒が大部分であった。肯定的な評価が90%以上ではあったが、昨年より低下した。学習と部活動等をうまく両立できていない生徒がいる。	生徒が学習と部活動等をうまく両立し、充実した学校生活が送れるよう、全職員で指導・助言に努めたい。	

第2回学校評議員会(H31.1.24)における学校評議員の主な意見より
(本校の教育活動について)

○素晴らしい実績です。
○コンクール等でも多くの賞を受賞していて素晴らしい。
○全般的に良い学校だと思います。
○色々な場面で学校が全国的に有名になっていると思います。地域との交流も良く、継続して実践して欲しい。
○昨年の11月頃から農場の様子等がテレビ等で放映され、生徒が意欲的に活動しているを改めて感じた。
○学校に関する放送がある場合は知らせて欲しい。生徒が活動しているところや学校が発表している状況等を外に知らせていけば学校に対する理解が深まるのではないかと。

○新聞報道の拓陽高校の記事でも、一生懸命頑張っていると感心しています。
○共進会(栃木県酪農試験場で行われたホルスタインのコンテスト)で生徒達が一生懸命活動している姿は印象的でした。
○高校野球の生徒達の一生懸命な姿は素晴らしい。
○進路状況も素晴らしいです。大田原市にも新しい雇用ができています。是非、拓陽の卒業生に地元の大田原にも就職して欲しいです。
○冷暖房に関する要望に関しては、徐々に実現出来れば良いと思います。
○今度も充実した指導がなされるように期待します。